

一日お母さん体けん

豊川小・3 矢野 悠生

夏休みのある日、ぼくはお母さんになってみた。お母さんはいつも大へんそうで、

「いそがしい、いそがしい。」

と言っているからだ。今日は日曜日、お母さんは、いつもは六時に起きているけれど、お仕事のない日は八時まででねている。八時ごろ起きてまずは、せんたくきを回して、その間に今日はおふろそうじとぼくの上ぐつをあらうことにした。

おふろそうじをするのは楽しい。あわで遊んだり、あわだらけにしたり、おふろをあわだらけにできるのが楽しすぎる。スプレーを七〜八回もシュッシュッ出していたらお母さんに、

「そんなに使わなくてもいいよ。」とおこられた。

次に自分の上ぐつを持ってきてあらった。しっかりこすってよごれを落とした。とくに上ぐつの中はきれいにならなくて苦ろうした。その後は、朝ごはん作りをした。今日はお母さんとサンドイッチを作ってみた。

ゆでたまごのからをむいてつぶして、パンにマーガリンをぬった。ぼくのすきなハムをのせて、その上につぶしたゆでたまごをのせた。ハムとパンではさんでお皿においていった。もう一つはきゅうりとハムとチーズをはさんだのを作った。

サンドイッチを作った後、今度はせんたく物をほした。外もだいぶ暑くなってきていた。いつもお母さんは、

「日やけしちゃうよ。」

と言って、せんたく物をほしている。今日ぼくは、家族みんなの服をハンガーにかける仕事をした。いつもお母さんがやっている方を見ておぼえていたので、首のところのびないように気をつけてハンガーにかけた。

全部、せんたく物をほし終わったので、ようやく朝ごはんを食べることにした。朝からずっと仕事をしてぼくはおなかがぺこぺこだ。早く食べたかった。なのに、

「お姉ちゃんを起こしてきて。」

とたのまれた。仕方なく起こしに行くと、

「きん肉つうで動けない。後で食べる。」

と言ってお姉ちゃんは起きてこない。ぼくはどうしてぼくの作ったごはんをいっしょに食べてくれないのとおおこれてきた。

その後は朝ごはんのお皿あらい。スポンジできれいによごれを落とさないのだめだ。ほう丁は、手を切りそうでこわい。

やっとお皿あらいが終わって、ゲームができると思ったら、まだ部屋の様子があつた。

そうじきでごみをすいとるのだけれど、暑いし、動きっぱなしでつかれた、休みたいな。

十二時すぎにはお昼ごはん、夕方にはせんたく物を取りこんでそれをたたんだ。

それにスーパーへ買い物、夜ごはんのじゅんぴ。お母さんは休むことがないことをはじめて知った。すごいハードだ。

ぼくがヨーチューブを見たり、アイスを食べたりしていた時、お母さんはあせをかきながら一人で家事をしていてくれていたんだ。お母さんは一番大へんだなあと思った。これからもっとお手伝いするね、お母さん。